

委託事業実施内容報告書

平成22年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語指導者養成】

受託団体名 NPO 法人 可児市国際交流協会

1 事業の趣旨・目的

2008年秋の経済危機の影響により、可児市においても2年前に比べて、外国人登録者数は約20%減少しているものの、毎月100人前後の外国人住民の新規転入者がいる。近年の特徴として、従来は、中南米出身者が多かったが、東南アジア出身者が新たな住民として多く転入し増加している点である。その結果、外国人の登録者数は依然として総人口の6%を占め、住民の約16人に一人が外国人住民と言う現状である。

1990年以降増加した中南米出身者については、以前より顕著に定住化する傾向となった。しかしながら、必ずしも日本語の理解力が十分でないため、地域住民として安定的に生活して行くためには日本語習得が欠かせない。したがって、地域の生活者として必要な基本的な日本語を習得できるように支援する日本語指導者を養成すると共に、多様な言語や文化を持った在住外国人への日本語や文化の指導支援対応が出来る人材を育成していくことが求められる。

本講座では、すでに日本語学習支援者として関わりを持った人達のスキルアップを狙うと共に、多様な外国人への対応が出来るために、日本語の「話す」「聞く」「読む」「書く」の日本語の基本的な要素を知り、多文化理解とボランティアな歩みを始める人材育成を狙う。

2 企画委員会の開催について

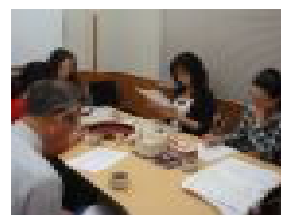
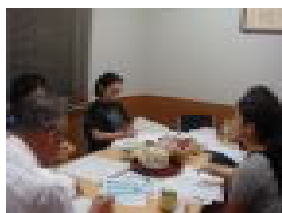
【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
5月31日 18:00～ ～20:00	可児市多 文化共生 センター フレビア	清水 小島 島袋 金子 小川 各務 中村 (7)	・提出企画の内容の説明と取り組みについて ・日程と項目担当者の確認 (各講座の担当確認) それぞれ経験実績のあるものが担当 日本語ボランティア の役割と地域の日本語支援は各務、	・地域の外国人の現況 日系ブラジル64%、フィリピン26%、他 合計5800人、 最近は減少傾向、但し毎月の新規転入者は約100人あり。多国籍化傾向(ブラジル人の減少、東南アジア出身者の増加、研修・結婚など・・・) ・受講者は主に日本人とし、新たな指導者を養成するとともに、既指導者も含めて多様な国籍の新規転入者への基本的な日本語

			日本語とは、日本語の文法、話すこと、聞くこと、書くこと、読むこと、文字・語彙、母語と日本語、日本人の言語表現の9講座を清水、年少者の日本語は小川、異文化理解は小島が担当する ・参加者募集人数・方法について	指導支援方法を学ぶ講座とする。 ・期間：当初案を見直して、7/11～10/24まで、全13回を確認 ・年少者を対象とした講座を追加する。 ・先着20人としMax30人までOKとする ・募集は市広報誌6月15日号に「日本語の教え方を学ぼう」で掲載
6月28日 18:00～ ～19:30	可児市多文化共生センターフレビア（研修室）	清水島袋金子小島各務中村（6）	・募集・応募状況 ・日程・プログラム・担当の最終確認 ・その他	・広報した結果：受講者30名、可児市25人、美濃加茂3名、女性23人、男性7人（60代）外国出身者：4人 ・すでに日本語指導等に何らかの形で関わっている人が50% ・初日に、参加者に、何を期待しているか、どんなことを学びたいか、アンケートを取る（各務） ・受講者に課題を与える： ・募集チラシ（別紙） ・市広報（別紙）
9月27日 18:00～ ～19:30	可児市多文化共生センターフレビア（多目的室）	清水島袋金子小川各務中村（6）	・実施経過について（評価と反省） 参加者：30人 ・参加者の態度、期待、簡素指導について ・その他	・参加者は想像以上に熱心に受講している。 ・9回終わった時点で5人が脱落？（1名は韓国でのボランティア活動のため） ・受講者に日本語教室・就学支援教室等の見学レポートの提出を課したが、多くが指導の難しさとともに、関心も深めたようだ。 ・残りの講座の中で、受講者の変化をつかみたい。何が変わったか、今後何をしたいか等について・・・ ・受講態度は経験のある人と初めての人では興味の対象が異なっている。
10月25日 18:00～ ～19:30	可児市多文化共生センターフレビア	清水島袋金子小川	・実施経過報告 参加者の状況 ・反省	・出席率は大変良く、全13回コースで、10回以上の出席者20人に修了証授与（その内無欠席者4人）毎回の平均出席者22

	(研修室)	各務 中村 (6)	・ 今後に向けて ・ 来期の申請内容について	人。 ・ 現職教師・経験者、日本語指導サポート実績のあるものが多かった。 ・ 課題意識：今までは講座終了後に実際の活動現場見学し、活動参加を促していたが、今回は期間中に随時実施したこと、活動に参加することを前提に受講する人もあり、関心が高かった。 ・ 長期間のコースにも拘らず脱落者も少なく、学習したことを実践に寄与できるし、新たに参加してくれる人材もいる。 ・ 反省 受講者に、活動経験のある人と、初めてこの分野にかかわろうとする人とは、関心や関わり方が異なるので全員に理解してもらうことは至難の業？ もう少し参加者を特定化したほうがよい？ ・ 今後実施する場合には 基礎コースか実践コースにする。 子どもへの指導に関心のある人も多い 講義の中身を絞る（拡げすぎない様に） 知ってほしいことはたくさんあり、できれば 25 回くらいあってもよい ブラッシュアップ講座も必要 ・ 来季も申請できるように早めに準備しておく(清水)
--	---------	-------------------	---	---

【写真】(会議風景)



第 1 回 運営委員会 (5 月 31 日)

第 3 回 運営委員会 (9 月 27 日)

第 4 回 運営委員会 (10 月 25 日)

3 養成講座の内容について

- (1) 養成講座名：定住外国人のための日本語学習支援者養成講座
- (2) 養成講座の目標：すでに何らかの形で日本語指導にかかわりを持っている日本語指導サポーターのレベルアップと、新たに支援参加できる人材の発掘
日本語を外国語として客観的に見る力を養って指導支援者となること
- (3) 受講者の総数 30 人
- (4) 開催時間数(回数) 26 時間 (13 回)
- (5) 参加対象者の要件：外国人に日本語を教えたい人、すでに教えている人でレベルアップを求める人(外国人も含む)
- (6) 受講者の募集方法：可児市が定期発行している広報紙 KANI 6月15日号に募集案内を掲載(別紙)。また協会が毎月発行している多言語情報誌(可児市内、人材派遣会社、コンビニ・学校・外国人集合住宅等に配布している)6月号に募集案内掲載(別紙)
募集チラシ(別紙)を市内各地域の公民館などに配布するとともに、各種講座研修会参加者に機会あるごとにPR、
- (7) 研修会場：可児市多文化共生センター「フレビア」 研修室(30名まで収容)
- (8) 使用した教材・リソース
参考教材・文献：
「話すことを教える」国際交流基金 日本語教授法シリーズ 第6巻
「聞くことを教える」国際交流基金 日本語教授法シリーズ 第5巻
「読むことを教える」国際交流基金 日本語教授法シリーズ 第7巻
「文法を教える」 国際交流基金 日本語教授法シリーズ ひつじ書房
「みんなの日本語」 スリーエーネットワーク編
「日本語教育をめざす人のための基礎から学ぶ音声学」 鹿島央著
スリーエーネットワーク
「日本語の音声入門解説と演習」猪塚元、猪塚恵美子著 バベルプレス
「ボランティアで日本語を教える」大阪YWCA 日本語教師会 アルク
「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案 文化庁
「豊田にほんごシステム」
「日本語」(上・下)金田一春彦著 岩波新書

「コミュニケーションのための日本語教育文法」	ひつじ書房
「日本語 Eメールの書き方」	The Japan Times
「成長する教師のための日本語教育ガイドブック上」川口・横溝著	ひつじ書房
「教えるためのことばの整理」Vol1 日本語教育演習シリーズ 丸山敬介著	凡人社
「基礎日本語辞典」 森田良行著	角川書店
「外国人が日本語教師によくする 100 の質問」	バベルプレス
「第二言語習得研究」 迫田久美子著	アルク
「目からウロコの脳科学」 茂木健一郎監修	PHP
「日本人の意識構造」 会田勇次著	講談社現代新書
「日本人の言語表現」 金田一晴彦	講談社現代新書
「たのしいさんすう 1」	大日本図書
「たのしい算数 4 下、6 下」	愛知教育大学
「外国人児童のための算数文章題 1～3 年、4～6 年」	愛知教育大学
「足し算引き算マスター・日本語クリアー」	東京外国語大学
「外国人児童・成とを教えるためのリライト教材」光元・岡本著	ふくろう出版
「Grade Six THEMATHEMATICS : Beyond Numbers」	DAIWA LEARNIG SYSTEMS INC
「多文化共生と定住外国人に関する Q & A」	美濃加茂華友会
他	

(9) 講座内容

実施日時	学 習 指 導 項 目 ・ 概 要	担当講師	受講者数
7 月 11 日 10:00 ~ 12:00	【日本語ボランティアの役割】 1. ボランティア活動へのきっかけ 2. 日本語ボランティアの役割について 3. コミュニケーションの大切さを理解してもらう 4. 現場を見て実態把握（レポートの提出指導）	各務眞弓 NPO 法人可児市 国際交流協会 事務局長	28 人
7 月 18 日 10:00 ~ 12:00	【日本語とは】 学習者の誤用や疑問を理解するために、学習者と同じ目線で「日本語」を「外国語」として客観的に見る目を養うことを本講座の目標として、以下の内容で講義。 1. 「日本語とはどんな言語か」を日本語を世界の言語と比較しながらいろいろな方面から見ていく。 2. 「外国人にとって、日本語のどんなところが難しいか」を紹介していく。 3. 「外国人とのわかりやすいコミュニケーションの取り方」を具体例をあげながら、紹介していく。	清水恵美 (財)名古屋教育 学院 専任講師	24 人
7 月 25 日 10:00 ~ 12:00	【日本語文法】 1. 文法とは何か、国語教育と日本語教育の違い 2. 文法性の判断に関わる 3 要素 3. なぜ文法を意識的におしえるのかを、第二言語習得のメカニズムから考える 4. 文法学習の有効的な練習と練習の役割	清水恵美 (財)名古屋教育 学院 専任講師	25 人
8 月 1 日 10:00 ~ 12:00	【話す事を教える】 1. 私たちの「話す」という行為のプロセス 2. コミュニケーションに必要な能力 3. 話す力を育てるための具体的な教室活動 4. 「可児市の日本語教室の教室活動」例、「おしゃべり」しながら、生活日本語を習得する教室活動を紹介。「おしゃべり」しながら、目標言語達成に向けて話を展開させる考え方と方法。	清水恵美 (財)名古屋教育 学院 専任講師	18 人

8 月 8 日 10:00 ~ 12:00	【聞く事を教える】 1 . 日常生活で「聞く」という行為がどのように行われているか。私たちはどんな場面で、どんな目的で、どのようなストラテジーを使って聞いているか、を振り返る。 2 . 「聴解」= 「聞いて理解し、反応する」はどんなプロセスを辿っているのか、を理解する。 3 . 「聴解」教材を実生活に結びつくように使うにはどんなことに目を向けて、工夫したらいいか、を 1 . 2 . で学んだことを生かして、話し合い、アイデアを出し合う。	清水恵美 (財) 名古屋教育 学院 専任講師	22 人
9 月 5 日 10:00 ~ 12:00	【書くことを教える】 日常生活で「書く」という行為がいつ、どんな目的で行われているかを振り返り、「書く」力を育てるには何を教材に、どんな練習をすればいいかを考える。 ・ 日常生活の「書く」場面をさがす ・ 「書く」ために必要な知識と技能 ・ 日本語教育現場の「書く」= 「作文指導」の問題点	清水恵美 (財) 名古屋教育 学院 専任講師	22 人
9 月 12 日 10:00 ~ 12:00	【読むことを教える】 1 . 日常生活で「どんなもの」をよく読むか。そして、それらを「どう読むか」を振り返り、読解ストラテジーを意識化する。 2 . 「読み」の過程を知る。「ボトムアップ」「トップダウン」の読み方 3 . 「背景知識」= スキーマを活性化させるための練習 4 . 「速読」(スキミング・スキヤニング) と「精読」の指導法 5 . 読解における「音読」の効用と弊害	清水恵美 (財) 名古屋教育 学院 専任講師	24 人
9 月 19 日	【文字・語彙を教える】 1 . ひらがな 50 音表を振り返る「濁音・半濁音・拗音・促音・長音」の発生形が似ているひらがな・カ	清水恵美	19 人

10:00～12:00	タカナ 2 . ひらがな指導の方法 3 . 漢字・カタカナ 非漢字圏の学習者の漢字の捉え方と覚え方 外来語 とカタカナ表記、その他のカタカナ表記 4 . 類義語 の意味と使い分け	(財)名古屋教育 学院 専任講師	
9月26日 10:00～12:00	【母語と日本語】 第二言語習得過程を知ること、学習者共通に顕れ る誤用を理解する。 母語と第二言語の習得の違い 言語生得説 言語と脳 母語の影響(言語転移)	清水恵美 (財)名古屋教育 学院 専任講師	20人
10月3日 10:00～12:00	【日本人の言語・感情表現】 1 . 外国人にとって、理解しがたい日本人の言語表現 にはどんなものがあるかをあげる。 2 . それぞれの言語表現が日本人の対人意識や日本人 の考え方、心情をどう反映しているかを探る。	清水恵美 (財)名古屋教育 学院 専任講師	21人
10月10日 10:00～12:00	【年少者のための日本語指導】 1 . 可児市の「外国にルーツを持つ子どもたち」につ いて 2 . 外国人児童・生徒学習保障事業概要 3 . 日本語指導が必要な児童生徒とは 4 . 生活言語と学習言語の体験 5 . 「外国にルーツを持つ子どもたち」に伝えたいこ と	小川裕美 可児市教育委員 会 ばら教室 (外国人児童生 徒コーディネーター)	19人
10月17日 10:00～12:00	【異文化間のコミュニケーション】 1. 異文化の「異」を考える(ワークショップ) 2. 「ちがひ」と「区別」を体感する(W/S) 3. 自分を見つめ、多様性を考える(W/S) 4. 今日の学びの振り返り	小島祥美 愛知淑徳大学コ ミュニティーコ ラボレーション センター 講師	18人

10月24日 10:00～12:00	【地域の日本語教育支援について】 1．地域の日本語教室の状況紹介 2．可児市の状況 3．近隣地域の状況 4．様々な形式と組織・関わる人々 5．東海地域の日本語ネットワーク（東海日本語ネットワークの紹介） 6．日本語教師と日本語サポーターの役割 7．まとめと振り返り	各務眞弓 npo 法人可児市 国際交流協会 事務局長	19人
-----------------------	--	-------------------------------------	-----

(10) 講座の評価

受講者に対するアンケート

参加の目的・現状認識や期待と今後のことについて、28名からのアンケート結果

- 大阪出身。就活中。地域のクラブで卓球指導。子どもたちに自転車の正しい走り方をライフワークとして指導している。
今後のことはまだ具体的には考えていない。(男性 60代)
- 市内の小学校勤務。学校に外国籍に子がおり接する機会が多い。
来日間もない子どもたちの手助けがしたい。(女性 40代)
- 退職し無職。日曜日日本語ボランティア。中国語や中国の歴史勉強・日本語を教える参考にする。(男性 60代)
- 近隣高校の国語講師。外国語としての日本語を捉えなおしたい。中国語を勉強中
特に考えていない。現在高校では事務的な仕事なので教えることを考え直したい(男性 50代)
- ハローワークで外国人の就労支援をしている。ブラジルで3年暮らし出産した経験あり。自分の経験を日本で暮らす外国人の方たちのために生かしたい。
数人の外国人を教えている中で、ぶつかっている問題をこの講座で学びたい。(女性 60代)
- ベトナム出身。アメリカ国籍。市内私立高校で英語を教えています(女性 50代)
- 高校の非常勤講師。
外国籍の子が1人おり何か自分にできることがあればと参加(女性 30代)
- 退職後からNPO活動をしている
自分のNPOでも日本語教室をやってみたい。(男性 60代)
- 近隣市の中国語教室で教えている。中国人2世。中国人と日本人の結婚が増えて相談を受ける機会が増えた。
受講後のことはまだ考えていない。いつかは中国で日本語を教えたい(女性 40代)
- 英語講師。恵那出身。英語と日本語の教え方の違いについて知りたい
自分にできることがあれば、この講座をきっかけにしたい。(女性)
- 専業主婦。美濃加茂市の手話講座を受講終了。今後も学んで行きたい

- 日本語講師の資格を取りに行く予定。将来アメリカで日本語教えるのが夢（女性 50代）
- 各務原在住。小学校勤務。支援学級担当。フレビアでスペイン語勉強中
仕事があり、ボランティア活動は難しいが仕事に生かせたら（女性 50代）
 - 専業主婦。韓国語や韓国の歴史を勉強しています。
9～10月に韓国大百済展のスタッフとして韓国でボランティア（女性 40代）
 - 中国語を勉強している。中国の方々に日本語を教えることもしている。
大好きなゴルフの合間にボランティア活動もしたい（男性 60代）
 - 人材派遣会社勤務。日本語交流教室サポートスタッフ。
講座で学んだ事を生かして今の活動に取り組みたい（女性 50代）
 - 日系ブラジル人。美濃加茂のブラジル友の会の「パッソアパッソ」教室で子どもに
日本語を指導している
今よりもっとうまく子どもに教えられるようにしたい。（女性）
 - 図書館勤務。中国語を勉強中。日本語交流教室のサポートスタッフ
日本語教室にもっと積極的に参加したい。（女性 20代）
 - 可茂総合庁舎で通訳。
日本人と一緒に受講でき勉強になる。日本語を通じて日本の文化を紹介したい。（男性 日系 40代）
 - 専門学校の講師を3月退職。日赤奉仕団で活動中
外国語ができなくてもできるボランティアを目指したい。（女性 60代）
 - 自営業。広告に企画デザイン。フレビアで英語受講中
娘がオーストラリア人と結婚。日本語と外国語を通じ世界の人たちと交流を深めたい。（男性 60代）
 - 最近東京から引っ越してきた。スイミングなどしているが、毎日ひまがある。
子どもやお年寄りとの交流や国際交流をしたい（女性 60代）
 - フィリピン人の友達が多い。日本語の書類を見て欲しいと頼まれることが多い。
これからのことは特に考えていない（女性 40代）
 - 主婦。ハーブ作りで交流。以前ポルトガル語を生かし病院で働いていた。
コミュニケーション上手になり自分の出来ることは進んでしたい。（女性 50代）
 - 介護職をやめ現在専業主婦。子育ても終わりいろいろチャレンジ。来月からパソコン教室にも通う
今後は考えていない。（女性 70代）
 - 3年前可児市に引っ越してきた。訪問介護の仕事をしています
スペイン語、タガログを生かして活動できたら（女性 40代）
 - 就学支援教室スタッフ
わかりやすい日本語の教え方を身につけ今後に生かしたい（女性 20代）
 - 就学支援教室スタッフ、日曜日、日本語交流教室サポートスタッフ
今後もボランティアを続けたい（女性 20代）
 - 定年後、自治会活動1年。中国語語学留学。美濃加茂華友会サークルに参加
ボランティア語学留学をしたい（男性 60代）

実施主体からの研修内容結果評価

- ・数名の参加者は就労に役立つ日本語指導の活動に参加。
- ・就学支援教室への参加など関心を深めて来た
- ・日本語を教えるだけで無く、様々な職能を持った人材の発掘が出来た
- ・日本語指導支援者の養成については、支援する上で、知っておかねばならない基礎知識とその実践方法について研修していきたい。日本語教育における文型とその具体的な教え方、文字指導の実際 語彙の増やし方 会話授業の展開の仕方 日本人の言語表現 外国人にわかりやすい易しい日本語で話す 子どもたちへの日本語指導方法等の枠組みで実施したい。

実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

- ・外国人の子どもたちの不就学にならない環境作り、関係機関との情報の共有化、連携を深める
- ・就学前の外国人の子どもたちへの進路指導教室の実施、保育園・幼稚園等に入園していない児童を対象に日本の学校生活の準備指導を行う。
- ・就学年齢を越えた子どもの進路指導教室、中学校の在学時間の少なかった生徒や、日本の学校を修了していない生徒のための高校進学指導を実施する。
- ・日本の学校在学児童・生徒へのバイリンガル支援、日本語中心になった子どもたちが、やがて、両国を行き来する国際人としても役割を担うことができる様に母語の学習支援を行う。
- ・日本での生活者としての学び講座（地域を知る、文化を作る、食と健康等）の開催
- ・弁護士・行政書士・社労士の協力を得て法律・生活相談会を定期開催
- ・日本語昼間教室（日曜日 2 時間）・夜間教室（土曜日 90 分）は 指導内容・対象・方法等について従来の新規参加者が多数を占める時の会話中心の対応型から、定住者、研修生、中南米から東南アジア系の学習者等の参加層の変化、資格取得などのニーズ等を考慮して見直しする。
- ・近隣地区の外国人支援団体との連携研修・交流会（県国際交流センターと連携）

（ 11 ）事業の成果

他事業との連携

- ・文部科学省の「定住外国人の子どもの就学支援」事業、岐阜県「ブラジル人子弟交流支援事業」岐阜県市町村国際交流協会等特別支援事業、地域国際化協会先導的施策事業等、可児市の日本語学習指導委託事業等の参加者と課題共有化

研修後の人材活用

- ・就学支援教室、日本語昼間教室、夜間教室等で参加できるように推進
- ・積極的に日本語指導に関わりたいと言う姿勢が見られ活動の場を拡充したい

（ 12 ）今後の課題

- ・多文化共生支援事業を具体的に企画。運営を展開していくコーディネーターの育成
- ・在住外国人の就労環境の先行き不透明への対応
- ・外国人学校の存立環境（制度・体制・行政支援）
- ・定住者への日本語習得の必要性の喚起（移住者・地域の生活者として対応）
- ・子どもたちへの母語習得の環境整備とバイリンガル教育

別紙（広報チラシ）



一般募集 案内チラシ



多言語情報誌（ポルトガル語版 Unidos）



市広報（6月15日号）